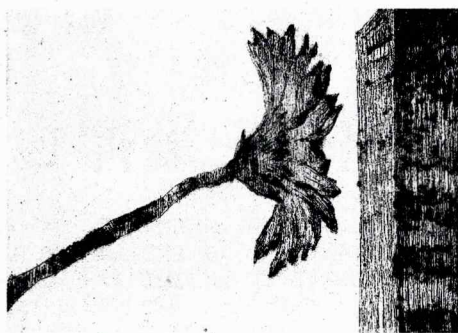


# 朝日 歌壇 俳壇



〈ガーベラとビル〉

岩尾恵都子

## 短歌時評 言葉のアクセス性

小島 なお

近年、全国の短歌大会から高校生以下の部門が減っていると感じる。予算などの問題もあるだろうが、盗作や類似作の増加が一因だと聞いたことがある。SNS上などであらゆる短歌作品に容易にアクセスできるために、課題に窮してネットで拾った作品を投稿してしまうことがあるのだから。もったいないことだ。戦渦の「過」、戦禍の「禍」との違いより知るべきことはもっとあるはず

佐野晃太

生物基礎ふたりで読んで、このままでいさせてくださいアラスカの森 角田千智 鳥籠茶溢し生まれた大陸を指で切つて 上村爽太 いずれもこの数年の短歌大会で出合った高校生の作品。一首目、現在進行形の戦争が行われるなか、机上で言葉の意味の微差を学んでいる今の歯痒さ。二首目では、環境破壊によって失われる原生林と、脆く儼しい学生時代の友人との関係と、

記者サロン「馬場あき子さんと振り返る 朝日歌壇の半世紀」 馬場あき子さんの退任を記念したイベントを4月19日午後2時から朝日新聞東京本社で開催します。会場参加(定員100人)の締め切りは4月10日。25日からオンラインでも視聴可能。紙面購読者は無料で申し込みます。申し込みは募集ページ(https://t.asahi.com/woov またはQRコード)から。

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のほかき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104・8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿でき

### 小林 貴子 選

悟られぬやうに浮かる、春の雪 (東京都江戸川区) 高木 靖之  
たつぷりと裾縋いぢわるさうな雛 (横浜市) 長井はるみ  
啓蒙や後ろから鳴るブルトツプ (相模原市) 渡辺 一充  
白魚を掬ふ柄杓の軽さかな (奈良市) 上田 秋霜  
父親の苦言のごとし寒戻り (横浜市) 座間 敏正  
魂を所望し給ふ古雛 (向日市) 福岡 猛  
腕伸ばし川に押し出す流し雛 (尾張旭市) 古賀勇理央  
東風吹いて放浪癖の靴磨く (厚木市) 北村 純一  
蝶々飛ぶベンチで食べるハムサンド (小平市) 倉持 聡美  
清らかな水が血液木の根明く (南魚沼市) 木村 圭

【評】一句目、春の雪がたまたまに降るのが嬉しくて、大人もこっそり浮かれる。二句目、雛人形の裾に縋が厚いことから、意外な性格分析に。三句目、出張帰りの夜の電車で、発車と同時に缶を開ける連帯感。四句目、柄杓に着目し臨場感がある。

### 長谷川 耀 選

☆馬場あき子花の盛りに退任す (八王子市) 額田 浩文  
LGBTの恋人たちよ水温む (新座市) 睦月くらげ  
大雪に太郎次郎の眠られず (和歌山県紀美野町) 神野 一馬  
大国に食ひ散らさるる寒さかな (福島県伊達市) 佐藤 茂  
大国が商国となる春哀し (東京都府中市) 志村 耕一  
あめりかのかくも貧しき荷風の忌 (日立市) 川越 文鳥  
一時を水面あやなす雛流し (茨城県河内町) 吉村 巖  
雪解けて大地にしかと線路あり (越谷市) 新井高四郎  
雪の貨車むかしは着きし錦糸町 (狛江市) 佐藤 淑子  
選評に歓喜詔山實の忌 (栃木県壬生町) あらゐひとし

【評】一席。歌人として人間としての花盛りにある。その花を惜しむ一句。二席。さまざまな人、さまざまな恋。八十億いれば八十億の世界あり。三席。眠らせるはずの雪が。十句目。「六句も選ばれた」とある。思い出というあたたかなもの。

### 大串 章 選

喧嘩独楽兜太汀子をなつかしむ (仙台市) 鎌田 魁  
祖父も父も見し山並や畑を打つ (山口県田布施町) 山花 芳秋  
春愁を檻の中から見られけり (茨城県阿見町) 鬼形のふゆき  
ふらふらやわが煩惱をふりおとす (京都市) 室 達朗  
夢の世になほ夢を見て雛飾る (高松市) 桑内 蘭  
古民家に古雛集ひ同窓会 (日立市) 奥井 能哉  
寒鴉一声啼いて過疎の村 (国東市) 木村 弘治  
海峡を三年眺め卒業す (横浜市) 吉野 暢  
春の雨仏壇のちち断とらふ (東京都新宿区) 岡野 真弓  
竹林の風の囁き雛納め (神奈川県大井町) 新井たか志

【評】第1句。独楽を打ち合って遊んだ「喧嘩独楽」は懐かしい。厳しくも優しくあった兜太先生・汀子先生を思い出す。第2句。代々農耕に励んできた家系。今後は自分たちが引き継いでゆく。第3句。檻の中から見ているのは猿かライオンか。

### 高山れおな 選

合格と栄転に舞ふ花粉かな (神奈川県大磯町) 村岡 真逆  
橋よりも橋の名ふるし春の雪 (大野城市) 野分 のわ  
ぼたん雪あたしゆつくり昇つてく (奈良市) 中島 澤  
☆馬場あき子花の盛りに退任す (八王子市) 額田 浩文  
春暁や生きむとベッドの縁撫む (神奈川県松田町) 山本けんえい  
茶道部に男子は一人利休の忌 (徳島県松茂町) 奥村 里  
今の世はやうなものだけ山笑ふ (大和市) 岩下 正文  
死んだふり止め起きて兄さん草青む (太田市) 沢沢 今美  
すみれ咲く潮風のなか原発群 (いわき市) 佐藤 朱夏  
殺人へ耳をめくる春夜かな (東京都中野区) 吉田 徹夫

【評】村岡さん。こういう場合、風に舞うのは桜の花のはず。そこに粉の字が付いて……。野分さん。長柄橋・宇治橋などは古代以来のブランドだ。情感豊かな季語を配した。中島さん。夏石番矢「降る雪を仰げば昇天する如し」と同様の感覚。